新郡市医師会長の紹介

函館市医師会会長

本間　哲 先生

平成26年６月19日の定時会員総会で、伊藤丈雄前会長が勇退され、本間哲先生が新たに第11代の函館市医師会長に就任されました。先生は、函館市医師会の理事を平成10年４月から５期10年間、副会長を平成20年４月から３期６年間務めております。また、北海道医師会の代議員でもあり、現在、議長の職に就いています。

先生は眼科の有床診療所を開業されており、一般診療のほか、数多くの手術もこなされています。患者さんからの信頼も厚く、多忙な毎日を送られています。

会長就任にあたっては、超高齢化社会を迎えるにあたり、地方の自治体との連携を強化し、地域完結型の医療を目指すことが重要であると述べております。また函館市医師会は、医師会病院・健診検査センター・看護専門学校・夜間急病センターの四大事業を運営しています。先生は、長年、医師会病院の運営委員長として、その運営に手腕を発揮されてきました。現在、国の政策が刻々と変わる中で、今後事業規模の大きな医師会病院の舵取りをどうしていくかが最重要課題になると訴えております。

先生は非常に多彩な趣味を持っており、ゴルフ・料理・歌舞伎・酒・歌と挙げればきりがありません。函館の冬の一大イベントである「初春巴港賑（はつはるともえのにぎわい）」では、毎年いろいろな役を演じられ、12月から稽古が始まると大好きな酒も断つほどの熱の入れようです。料理の腕前はプロ級で、われわれも時々ご馳走になっています。若いころラグビーで鍛えた体力はいまだ衰えを知らず、忙しい診療や医師会活動の中でも、趣味に手を抜かないのはさすがとしか言えません。

今後は会長として、今まで以上に函館市医師会を盛り上げていくことと確信していますが、くれぐれも健康には留意されることをお願いして、新会長の紹介といたします。

函館市医師会　副会長　恩村　宏樹

余市医師会会長

小嶋　研一 先生

平成26年６月26日に行われた余市医師会定時総会にて、永井前会長の後任として、小嶋研一先生が新会長に就任されましたのでご紹介いたします。

先生は、昭和30年生まれの58歳。昭和55年３月金沢医科大学を卒業し同大学老年病科へ入局、循環器内科を研修され、昭和56年10月北海道大学第３内科へ入局、消化器内科を研修され、昭和57年函館協会病院、昭和58年函館共愛会病院、昭和61年札幌の愛育病院に勤務され、平成元年より小嶋病院に勤務、平成10年に院長に就任され、「ひらかれた明るく暖かい、確実な医療」を理念として地域医療を実践されています。余市医師会には平成元年に入会、平成16年より理事に就任、積極的に医師会活動を行われました。

先生の御趣味は多彩で、音楽はジャズ、クラシックが好きで演歌は嫌いとのこと。ジャズは、ハンク・モブレー、ジョニー・グリフィンなど、クラシックは、シベリウス、マーラーなどを愛聴されています。愛読書は、村上春樹、誉田哲也、湊かなえ、久坂部羊などを読まれているとのこと。スポーツもお好きで、ゴルフはHC15くらいで、野球は40～50歳まで軟式野球をされ、現在は地元の日本ハムファイターズ後援会「ファイターズクラブ」の代表をされています。

余市医師会は余市町、仁木町、古平町、積丹町、赤井川村からなる会員数31名の小さな医師会であります。現在、医師や看護師の不足、高齢化などの医療におけるさまざまな問題があり、地方においてはより深刻な状況となっている中、「明るくひらかれた迅速な医師会」を踏襲され活動していきたいと語られております。これからは、先生の幅広い人脈と持ち前の指導力を発揮され、地域の保健医療、介護福祉の向上を目指していただければと期待しております。

先生におかれましては、ますますご多忙となると思いますが、どうぞ健康に留意され、ご活躍されますことを祈念いたしましてご紹介とさせていただきます。

余市医師会
北海道医報通信員　林　秀一郎

深川医師会会長

成田　昭彦 先生

一般社団法人深川医師会は、平成26年６月21日に第３回定時会員総会を開催し、前会長の山崎充先生が退任後に、成田昭彦先生が理事会満場一致で新会長に選任されました。

成田先生は深川のご出身で、札幌医大をご卒業されて研さんを積まれたのち、当地深川に戻られ、昭和60年にご開業されています。それ以来地域に根ざした診療を、ご専門である呼吸器疾患を中心に一般内科を診療されています。以前は病床を持っておられましたので、夜間診療、救急診療などにもご尽力いただいており、地域住民にとっては心強かった存在の先生です。

さて、この深川市を含めた北空知は高齢化も進行し、医師不足・看護師不足は常態化しています。医師会も徐々に会員数の減少があり、厳しい状況下に置かれています。長く理事をされた先生方も退任が多く出たこともあって、次期会長をどうするか、若い理事からも困惑の言葉がありました。しかし、誰ともなく、理事の間で「成田先生にお願いしてはどうか」という話が出ました。成田先生は約10年前に当医師会の副会長になってその後、諸般の事情により理事を退任されていましたが、医師会の役割、保健所の審査会などの公務は続けておられました。元々紳士的で、優しい先生でしたので、医師会が困った時に助けてくれると信じていました。各理事の想いが伝わり、今回成田先生が理事選挙に出てくれました。当然満場一致で会長に選任されました。

前会長の山崎先生が築いてくれました医師会の団結（地域医療をなんとしても守っていく、医師同士の連携、病診連携を推し進める）を継続し、新たな事業を考案し、健全なる医師会を構築してくれるリーダーとして、成田昭彦新会長に期待いたします。また、各深川医師会理事が協力を惜しまないのはもちろんです。

深川医師会　副会長　中島　功雄

十勝医師会会長

栗林　秀樹 先生

６月の十勝医師会理事会で、柏木道彦前会長の後任に、栗林秀樹先生が新会長に就任されましたので紹介いたします。先生は札幌市の出身で、札幌南高校を経て、昭和60年に東北大学を卒業され、十勝勤医協帯広病院内科医長を経て、平成８年石橋医院を継承し池田町で開業されました。その後、平成10年同町内に新築移転し現在に至っています。医師会活動としては、理事、副会長として当医師会を支えてこられましたが、医師会活動との出会いは余市時代の余市医師会とのことで、そこでの諸先生との交流は今でも忘れられないとのことです。

前会長の方針を引き継ぎ、十勝の医療ネットワークの発展に力を注ぎたいとの抱負を持たれています。十勝医師会は本年３月厚生労働省のICT事業の予算が付き、医師会のすべての医療機関の参加する地域密着型ネットワークである、TOMA-NET（Tokachi Medical Association NetWork）の運用が開始されようとしていますが、副会長としてここでも尽力いただきました。

また、新型インフルエンザ対策についての医師会としてのコンセプトを確立したいとのお考えです。2009年の新型インフルエンザの際には、閉業したパチンコ屋を借りて『発熱クリニック』を個人で立ち上げた経験があり、当時のさきがけとして全国版のマスコミにも取り上げられました。

先生の医院は患者会活動も盛んで、新年会、学習会、パークゴルフ大会やボッチャ（パラリンピックの種目で、高齢者でも車いすでも競技可能な軟球版ペタンクのような球技）等、地域の高齢者センター的な役割も果たしているようです。

先生の趣味は鉄道模型（「くりりん鉄道」でググればYouTubeで見られます）と『万葉集』とのことで、「帯広万葉の会」の事務局長もなされています。

最後に好きな歌を推挙してもらいました。

『我が母の袖もち撫でて 我がからに 泣きし心を忘らえぬかも』(防人として旅立つ私の袖を手に取って、涙を流して私の無事を祈ってくれた母の心が忘れられない）／『天地（あめつち）のいづれの神を祈らばか 愛し（うつくし）母にまた言問はむ』(この広い天地のどの神様に向かって祈ったら、あのなつかしい母にまた会えるのだろうか)

好きな理由は、親子の情愛は1200年の時を超えて変わっていないのが実感できるから、だそうです。

十勝医師会　杉目　正尚